

BPW Newsletter JAPAN

Official Newsletter of National Federation of Business and Professional Women's Clubs of JAPAN



2012.2.10
Vol. 104

[特集]
日本 BPW 連合会
2011 年度
ブロック研究会報告

CONTENTS

- 年頭のあいさつ
- シンポジウム香川発！「女性と経済活動」報告
- 世界女性経済サミット報告
- BPW 台湾大会に参加して
- 2011 年度ブロック研究会報告
 - ・関東・山梨ブロック研究会
 - ・近畿ブロック研究会
 - ・西日本ブロック研究会
 - ・北海道・東北ブロック研究会
 - ・中部ブロック研究会
- 2011 年度フェローからの報告
- JWLI2012 年度フェロー募集
- お知らせ:JWLI フォーラム開催
第 9 回 CSW インターン発表
- 東日本大震災復興支援事業
第 1 回支援対象の発表と贈呈式

日本 BPW 連合会ニュースレター
発行人：松原敏美 理事長
編集： 広報委員会

特定非営利活動法人
日本 BPW 連合会 事務局
〒151-0053 東京都渋谷区代々木
2-21-11 婦選会館 303
TEL.03-5304-7874
FAX.03-5304-7876
e-mail: office@bpw-japan.jp
ホームページ：
<http://www.bpw-japan.jp>

年頭のご挨拶

特定非営利活動法人日本BPW連合会 理事長 松原敏美



新年あけましておめでとうございます。

2012 年も日本 BPW 連合会は、意欲ある女性の活躍の場を広げるために、様々なアプローチを繰り返しながら、一步一步着実に活動を行って参りたいと思います。

年の始めにあたり、2010 年 12 月 17 日に閣議決定されました第 3 次男女共同参画基本計画が、今後 5 年間で取り組むべき喫緊の課題としている事項を、改めて確認します。

(1) 実効性のある積極的な改善の措置の推進

社会のあらゆる分野において、2020 年までに、指導的地位に女性が占める割合が少なくとも 30% 程度になるという目標を達するべく、取組を強化、加速することが不可欠であり、クォータ制、インセンティブ付与、ゴール・アンド・タイムテーブル方式などの手段をもって推進する。

(2) より多様な生き方を可能にする社会システムの実現

男性片働きを前提とした世帯単位の制度・慣行から、個人単位の視点でそれらの見直しを行う。

(3) 雇用・セーフティーネットの再構築

賃金格差の是正や M 字カーブ問題の解消を中心に、社会のあり方そのものを現実の状況に合わせて再構築する。

(4) 推進体制の強化

国、地方、民間の有機的なネットワークを強化する。

これらの視点を参考にしながら、今年 1 年事業の企画・実行に努めたいと考えますが、特に、(1) について、1999 年に成立した男女共同参画社会基本法をうけて取組が行われてきたものの、日本のジェンダーエンパワーメント指数は、他国に追い越されてむしろ順位が低下している状況をみれば、究極のポジティブ・アクションであるクォータ制等実効性のある制度の導入を真剣に考える時期に来ています。ところが、それを受け入れる雰囲気は、日本社会に全くと言っていいほどありません。つまりは、これを実現するためには、誰かが先頭に立って旗をふる役割を荷なうしかないと思われまます。そこで提案なのですが、日本 BPW 連合会が、政治の分野においてクォータ制を導入することや、企業の役員について男女の一定比率をクリアした企業に税制等で優遇措置をすることを法制化する運動に、本格的に着手する年にしたいと思うのですが、いかがでしょうか。また、(2) に関連して、男性片働きを前提にした世帯単位の制度はもはや時代に合わず、かえって働く女性を不当に差別する結果を招来しています。現行制度の問題点(特に年金問題)を、社会に知らしめる運動にも力を入れる年にしたいと思います。(3) については、イコール・ペイデイ運動を日本でも実施することや両立支援、ワーク・ライフ・バランスの働き方の浸透に一層努力します。(4) については、NPO を、社会を支える 3 つ目の柱にするために、4 月に横浜市と和歌山市でフォーラムを行います。

これらの他にも、昨年沖縄平和賞に当会をご推薦いただく機会があり、そこで、人を育てることにより世界平和に貢献している当会の活動に光りがあてられました。連合会は、今年も次世代育成に力を注いで参ります。さらに、昨年の東日本大震災の復興支援事業として、女性の力をビジネスに活かすことによって被災地域を元気にし、かつ女性の雇用を広げるための「女性から始まる復興支援金」を 3 事業所に贈呈致しました。この支援事業を、今年も継続したいと思っています。会員の皆様方の協力を、本年もよろしくお願い致します。

**シンポジウム「香川発！女性と経済活動～
ネットワークづくりが女性の経済活動を支援する」
内閣府と共催**

平成 23 年 12 月 17 日(土)香川県高松市サンポート
かがわ国際会議場にて、BPW 香川クラブの協力をうけ
て開催しました。

第 1 部リレー・レポート 香川県知事の浜田恵造氏、高松
市長の大西秀人氏の来賓挨拶に続いて、リレー・レポ
ートが行われ、報告者は発言順に岩田喜美枝氏((株)資生
堂代表取締役執行役員副社長)高松市出身、木村葉月
氏(ライフスタイルブティック GRACE MARKET オーナー・香川県中
小企業家同友会女性委員会委員長)、藤井寿美子氏(金



両(株)取締役金両醬油(小豆島)5 代目当主修行中)、武
川恵子氏(内閣府大臣官房審議官・男女共同参画局担
当)高松市出身。各講演者はそれぞれ、経営者として、
行政担当者として取り組んできたこと、経済への女性の
参画が国際的に遅れている現状などを報告しました。

**第 2 部パネルディスカッション「ネットワークづくりが女性の
経済活動を支援する」** 名取はにわ氏(内閣府情報公
開・個人情報保護審査会会長代理、元男女共同参画局長/
日本 BPW 連合会副理事長)がコーディネーターとな
って上記 4 人をパネリストとして、会場から寄せられ
た多数の質問、意見をもとにディスカッションが行
われました。女性が仕事を続けるための様々な取組
みの紹介、女性がもっと活躍できるためのポジティブ・ア
クションを勧めるためのクォータ制の必要性、女性の成
長に向けてのチャレンジの重要性、そしてそれらを実現
させるためにネットワーク・連携が如何に大切かというこ
とについて熱気あふれる議論が展開されました。

参加者のアンケートでは、『香川出身者の話でとても
興味をそそられた。第一線で活躍されている女性の
様々な職種や視点から話が聞け、今経済活動がどのよ
うな状況なのか、問題点はどこか等々学べて良かった。
女性に関する地位の現状を認識させられ、またそれに



四国新聞 2011年12月18日

屈せず活
躍してい
る方々に
勇気をも
らった、4
人の方々
の生き方
にとても

魅力を感じた。』等と、『あつという間の 3 時間だった。も
っと聴きたい、他の地方でも開催を』との声が寄せられま
した。(佐藤)

日本 BPW 連合会は、内閣府男女共同参画推進連携会議の
メンバーとして、ワークライフバランス推進、APEC 女性リーダース
ネットワーク関連のフォーラムなどを内閣府と共催するほか、男
女共同参画社会実現に向けての様々な提言を政府に対して
行っています。

**APEC「女性と経済サミット(WES)」と経済活動に
おける女性のエンパワーメントについて**

平成 23 年 12 月 1 日、東京の学術会議講堂で「APEC
女性と経済サミット及び経済活動における女性のエン
パワーメントについて聞か会」と題して、APECWESの
報告会が内閣府主催で行われた。APECWESとは、
1996 年(議長国フィリピン)以来毎年開催されてきた AP
ECWLN(女性リーダースネットワーク)にかかわって、2011
年の議長国アメリカがリーダーシップをとって、その名称、
構成を変え 9 月にサンフランシスコで開催した APEC「女
性と経済サミット(WES)」のことである。WLN では幅広く
参加者を募ってきたが、今回は経済関係のリーダーの
会合として実施され、日本から参加した民間代表は 9 名。
林文子横浜市長、内永ゆか子ベルリッツコーポレーション
会長・社長・CEO ら多くの企業人に加え唯一の NGO
代表として、BPWから澤田順氏(東京クラブ)が参加し
た。

会合で焦点となったことがいくつかある。

- ・女性が経済活動に参加することの重要性とその意義が
強調・確認されたこと。
- ・この会合で採択されたサンフランシスコ宣言は、11月
にハワイで開催された首脳宣言サミット宣言にも書き込
まれた首脳の合意。これには日本の総理も合意したとい
うこと。
- ・APEC 域内における女性の経済活動の機会拡大に向
けてむけて具体的な行動をとることが同意されたこと。
- ・女性と経済に関するサンフランシスコ宣言を歓迎しそ
の履行を監視することを約束する。

・もう一つ、WES参加者の誰もがその報告の中で指摘したのは、ヒラリー・クリントン国務長官の発言で、「今、女性の労働参加への障害を取り除けば、GDPがUSで9%、EUで13%、そして日本では16%の増加が見込まれる」というポイント。日本の経済力を16%押し上げるには・・・女性が経済活動に参加できる社会的素地を造ればよいということ・・・これは記憶に留めて色々なときに活用すればよいというのが会場にいた全ての人の感想だったようだ。(平松)

緊急 APEC「女性と経済サミット」 参加報告会開催

BPW では、上記の内閣府主催の「聞く会」に先立って、10月16日、婦選会館で「緊急「APEC 女性と経済サミット」参加報告を聞く」を開催した。テーマは「女性力アップに向けて、今何をなすべきか」。講演者、大西祥世氏(法政大学法学部兼任講師)は、「今なぜ、女性の経済力が問題なのか」と題して、経済的パワーアップを目指して世界の最先端情報を共有し提案していこうと、現在、国連を中心に企業を取り込んで活発化している「女性力

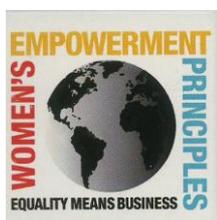


ヒラリー・クリントン国務長官のビデオを見ながら報告する澤田氏。



アップを目指す7原則」(WEPS)について報告した。この後、9月にサンフランシスコで開催された「APEC 女性と経済サミット」に唯一NGO代表として参加したBPW東京クラブの澤田順氏(メラー・トレード株)が「クリントン国務長官が持つ女性力の凄さ」と題して報告した。

この会合には、元文部大臣の赤松良子氏や女性の地位委員会の日本代表を勤めた目黒依子氏、元男女共同参画会議議員の古橋源六郎氏らも姿を見せ、女性の経済力を強めるために、クォータ制の必要性、地方政治の重要性、世界の女性たちの経済進出についてもっと追求する必要がある等のコメントが寄せられた。



Women's Empowerment Principles (WEPS)
「女性のエンパワメント原則」

台湾 BPW 大会参加報告

2011年12月17-19日、台湾BPW全国大会が台湾の観光地、宜蘭(イーラン)で開催され、日本からは松原理事長、平松国際委員長が参加した。去る7月に呂秀蓮会長が東日本の災害視察を目的に来日したおり、東京クラブのメンバーと会談し、今後更に交流を深めていくためにも台湾BPW大会への参加を要請されたこと、またその後、震災被害への支援として台湾から40万円の寄付を受けたこともあって今回の参加となった。



呂会長に、震災支援金へ感謝のメッセージと贈物を手渡す

会のテーマは、「女性のエンパワメント-女性の経済力強化一に向けて:WEPS(女性のエンパワメント原則)の実施」。6人の発言者がそれぞれの見解を述べた。尤美女福会長からは、「全員に共通してビジネスへの関心が強く、経営に関わる女性、起業を目指す女性が多い。女性の地位強化には、事業主としての感覚が必要であり、更にキャリアアップすることで女性の力は強化される」と述べた。更に、伝統的な「没有重男軽女」は今変わりつつあると、台湾の女性実業家王氏の言葉を引用して「信じれば動く」と述べた。



台湾の活力を探る「台湾 BPW 大会報告」は

1部500円でお求めになれます。

2011 年度日本 BPW 連合会ブロック研究会報告（開催順）

■関東・山梨ブロック研究会(担当 東京クラブ)■

- ◇開催日：2011年10月15日(土)13時～16時半
- ◇会場：婦選会館2階会議室
- ◇テーマ：「未来に向かって、社会の為に、自分の指導力を活かす！」
- ◇参加者：45名（一般21名）
- ◇プログラム
 - ・開会挨拶：村田美夏 BPW 東京クラブ会長
 - ・主催者挨拶：松原敏美 BPW 連合会理事長
 - ・第1部 ヤングスピーチ コンテスト テーマ：「仕事と私」
木村友梨子さん(大学院マネジメント専攻)・中村優子さん(特殊法人職員)、前田知花さん(会社役員)、鹿山ゆかりさん(大学2年・国際ビジネス専攻)
 - ・第2部 JWLI ボストン 2011年フェロー 公開報告
 - ▶ 挨拶及び JWLI プログラム紹介：フィッシュ厚子氏 フィッシュ・ファミリー財団理事
 - ▶ JWLI5期フェロー4人からの報告：(氏名等は6ページの「2011年 JWLI フェロー・プログラム報告」参照)
 - ・第3部 基調講演：「飯館村の長い挑戦とは」
講師：板本洋子氏（結婚問題アドバイザー、日本青年館結婚相談所 専門相談員）



《概要》

□ヤングスピーチコンテスト参加者の4名は、それぞれに大きな夢を持ち、仕事を通して社会との関わりや自分の生き方について、若々しい元気なエネルギーで会場にフレッシュな風を送

ってくれた。最優秀賞は鹿山ゆかりさん。

□2011年で5期となるボストンへの1カ月の研修を終え帰国したばかりの4人のフェローから、研修を生かした今後のビジョンも含めてのホットな報告があった。JWLI プログラムの創設者フィッシュ厚子氏もボストンから参加され、熱いメッセージ『You can make a difference あなた方一人ひとりの努力が、社会に大きな変化をもたらす力になる事を信じて行動してください！』と共に、フィッシュ氏が去年創設した東日本被災支援の活動についても報告があった(櫻井)

□板本氏の講演は、登場人物の方言を交えた語りや軽妙なエピソードで会場は大いに笑った。板本氏と飯館村との関わりは26年前に遡る。『いいって夢創塾』の講師として招かれ、その後、第一回のヨーロッパ研修旅行『若妻の翼』に30代の19人の若妻と同行した。若妻達は、農作業や家事、子どもや年寄りを置いて出発するまでの並々ならぬ大変さを乗り越え、ヨーロッパに行き、戻ってきてからはそれぞれがその経験を村で活かした。先日、50～60代の元若妻達を訪ねてみた。彼女達は、仮設住宅で管理委員となり、お年

寄りを孤独死させない取組を行っていた。全村避難の飯館村の長い挑戦は今も続いている。(齋藤)

■近畿ブロック研究会(担当 大阪クラブ)■

- ◇日時：2012年10月22日(土)13時半～16時
- ◇会場：帝国ホテル
- ◇テーマ：東日本大震災直撃の宮城より『被災地の現状を語る』今、私達女性はいかに行動するべきか
- ◇プログラム
 - ・第1部 講演「私が変わる 社会も変わる」
講師：宮城県議会議員 ゆさみゆき氏(仙台クラブ)
 - ・第2部 ヤング・スピーチコンテスト「私と仕事」スピーカーは柴原陽介さん(スポーツクラブ・幼児体育)と松本真紀子さん(建設会社会社員)の2人。松本さんが来年の全国大会に出場することが決まった。



■西日本ブロック研究会 担当 長崎クラブ■

- ◇開催日：2011年11月6日(日)12:00～16:00
- ◇会場：長崎市立図書館 多目的ホール
- ◇テーマ：“変革への挑戦～女性たちのリーダーシップ・アドボカシー・行動”
- ◇参加者：85名（一般53名）
- ◇プログラム
 - ・開会挨拶：名取はにわ日本 BPW 連合会副理事長 鶴田雅子長崎クラブ会長。
 - ・第1部 基調講演『私が変わる 社会も変わる』名取はにわ(連合会副理事長/元内閣府男女共同参画局長)
 - ・第2部 ヤングスピーチコンテスト
 - ・第3部 パネルディスカッション「ステキ♡女子力」

《基調講演要旨》30 数年、女性問題に関わる事によって、自分自身も変わった！と。仕事を始めた頃の状況は「女性は出世してはいけない」(＝女性は結婚して仕事を辞めるものだ)「掃除とお茶くみは女性の担当」「男性は仕事だけで、女性は仕事も家庭も…」、「女性職員には期待せず、チャンスを与えなかった」と、ジェンダーの視点が全くなかったことを指摘した。ただし、職員の大多数が女性であった女子少年院での経験は目からウロコ、つまり、意思決定が女性によってなされる環境では状況は全く逆転していた。

ノルウェーや IBM などは、法整備やクォータ制導入で女性の存在が見え、活躍している。日本も、女性を差別している場合ではなく、“人材は国の宝”とし、多様性の確保が求

められる。

《ヤングスピーチ・コンテスト》発言者は廣雅美さん(ホテル副支配人)、里山裕美子さん(製薬 MR)、廖明智さん(観光協会勤務)、若杉亜希子さん(結婚相談所勤務)の4名。最優秀賞は廖 明智さん。

《パネルディスカッション》パネリストは井田裕子さん(出張助産師)、高木愛さん(保険会社勤務)、高野繭子さん(雑貨店経営)、長沼邦子さん(会社役員)に山本美子さん(カフェ・オーナー)。コーディネーターは長崎クラブの 高倉悦子さん(公務員)。“年代も職域もちがう、いろんな女たち… それぞれのペースで夢を実現する! その生き方、働き方から新たな一歩を見つけ、みんなで、女子力をアップしよう!!”という趣旨のパネルディスカッションであった。



《閉会式》では、スピーチコンテストの審査結果発表と講評が、審査委員長の土田アイ子連合会企画委員長より発表され、鶴田 BPW 長崎クラブ会長よりそれぞれに賞品が贈呈された。平野啓子長崎クラブ副会長の閉会の挨拶でブロック研究会は幕を閉じた。会の後、BPW 会員および連合会役員、自治体関係者や出演者を交え、長崎の港を眺めながらの懇親会で親交を温めた。

■北海道・東北ブロック研究会 (担当 苫小牧クラブ)■

- ◇日 時:2011年11月19日(土)13時～20時
- ◇会 場:グランドホテルニュー王子
- ◇テーマ:変革への挑戦～女性たちの指導力・発言力・行動力
- ◇参加者:60名(一般34名)
- ◇プログラム

- ・開会挨拶:BPW苫小牧クラブ会長小山恵子
- ・主催者挨拶:BPW連合会副理事長棚田美津子
- ・来賓挨拶 苫小牧市副市長菊地和巳氏
- ・ヤングスピーチコンテスト「私と仕事・職業」
- ・ヤングトーク「私の仕事・私の挑戦」
小野寺晶子さん(道の駅店長)、能登千織さん(研究機関職員)／山田智子さん(野生鳥獣保護センター救護員)

・講演:「アフリカの女性たちと歩んだ道～野生のゾウと共に」
講師:中村千秋さん(アフリカゾウ研究者)



- ・ヤングスピーチコンテスト審査結果発表と講評
審査委員長:日本BPW連合会土田アイ子
- ・ヤングスピーチコンテスト表彰式と懇親会

《概要》ヤングスピーチコンテストは4クラブ推薦の5人が出場し、熱のこもったスピーチが披露された。続くヤングトーク「私の仕事・私の挑戦」では、かつてBPWブロック研究会や全国大会のヤングスピーチコンテストにおいて苫小牧クラブ推薦で出場した3人の若者たちが、その後どのように仕事に取り組みこれからどんな目標を持ち挑戦を続けるのか、スピーチコンテスト出場を機にますます大きくはばたき活躍している姿を語ってくれた。

道の駅ウトナイにテイクアウトの店を出店し“食の安心・安全”の探求を続ける小野寺さん、政府のアイヌ政策推進会議委員としてアイヌ民族政策について発言した能登さん、ウトナイ野生動物の救護を通して子供たちに“いのちの授業”を広げる山田さん、各スピーチに会場から暖かい声援が送られた。

講演「アフリカの女性たちと歩んだ道～野生のゾウと共に」では、ケニア在住の中村千秋さんが、生い立ちからさまざまな人との出会い、ケニアのツェボ国立公園と周辺地域での研究、アフリカゾウをはじめとする大型、中型野生動物とのトラブル、経済的に困窮している農村における社会的地位の低い女性たちへの活動支援などについて講演された。特にピリカニ女性たちの会との出会いやプロジェクトでの活動、その中で起こった事件を解決してゆく過程での女性たちの成長、経済的・精神的な自立を促すような長期的な支援を続ける中で信頼と共感を得ると共にその女性たちの視点と活動が地域住民の生活や意識にもたらした変革への挑戦や歴史が映像を交えて紹介された。

講演終了後、ヤングスピーチコンテストの結果発表と講評、表彰式、懇親会を行った。最優秀賞は田中裕美子さん、2012年の全国大会に出場する。

■中部ブロック研究会 (担当 名古屋クラブ)■

- ◇日 時:2012年2月4日(土)14時～16時
- ◇会 場:名古屋中日パレス
- ◇テーマ:「変革への挑戦～女性たちのリーダーシップ・アドボカシー・行動～」
- ◇参加者:61名(一般24名)
- ◇プログラム

- ・開会挨拶:名古屋クラブ会長 波多野慧子
- ・連合会挨拶:日本BPW連合会副理事長 深沢 公子
- ・来賓紹介:愛知県男女共同参画室室長補佐 中野里美氏、名古屋市男女平等参画推進室長 佐藤みどり氏
- ・ヤングスピーチコンテスト「私と仕事・職業」長倉鮎さん(児童養護施設勤務)、高瀬舞さん(岐阜市民健康センター勤務)、吉田映子さん(大学院生)、ニ・コマソ・トリアユ・デシアリ・デウイさん(大学留学生別科在籍)の4名。最優秀賞は高瀬舞さん。
- ・講演:「エシカル＝おもいやり～人にも、環境にも社会にもやさしく美しく～」原田さとみさん(タレント/エシカル・ペネロープ代表)
- ・ヤングスピーチコンテスト結果発表、表彰、講評 アイリス東海クラブ会長 余語三枝子

- ・次回担当クラブ挨拶 東海クラブ会長 若林 昌子
- ・閉会挨拶 日本BPW連合会企画委員長土田 アイ子



《講演要旨》フェアトレードとエシカルファッション。エシカルファッションとは、オーガニックな自然素材を使い、フェアトレードで伝統的な製法を伝承していること。さらに大事

なことは魅力的なデザインで、確かな品質であることが加わるという。エシカルな生き方とは、エコ、ロハスからさらに踏み込んで自分以外の他人も思いやる生き方と考えている。JICAのサポーターとして、ラオス、エチオピア、ルアンダを見て、女性の生活をなりたいさせること、フェアトレードを考える。未来のエッセンスはS. Small, Slow, Sustainable, Share, Self, Smart, Simple, Smile である。これからも地域でできること、タレントとしてできる活動をして行きたい。

4週間を通して、フェローは3つの組織(①ウェブ・オブ・ベネフィット ②エリス・メモリアル ③ATASK)で1週間ずつ過ごしました。①はDV被害者の女性の気づきと自立を支援。②はボストン初の厚生施設として出発した歴史をもとに、教育及び社会事業を展開し、両親共働き家族へのニーズ対応と支援を革新的かつ多角的に行っています。③はニューイングランドでのアジア系移民DV被害者の女性と子どもを対象に、シェルターと各種支援サービスを提供。上記組織はフェローが各理事会や、コミュニティ福祉事業、ファンドレイジング、グラント請求、非営利のマネジメントと事業拡大など、非営利組織運営の実態を観察し、討議する機会を提供。更に、フェローはハーバード大学生涯学習スクールにて、私の授業にも参加しました。

4週間の内の1週間はシモンズ・マネジメントスクールでの *Strategic Leadership for Women* コースに参加。コースはパワー、チーム・ビルディング、コミュニケーションなど、リーダーシップ・スタイルと資質の習得を目指していますが、同時に、ジェンダーの違いがどうリーダーシップ発揮に影響するか、リーダーとしていかに戦略的に対処するかに焦点がおかれまして。

日本は今、大変な時期にあります。女性には非営利領域においてリーダーシップをとり、日本社会やコミュニティに変化をもたらすことができる機会でもあります。

2011年 JWLIフェロー・プログラム報告 The Japanese Women's Leadership Initiative

2011年 JWLI 研修は9月5日から9月30日まで、ほぼ1カ月の日程で行われました。参加したのは、甲賀美智子さん(大学講師)、宮澤由佳さん(NPO 法人理事長)、阿部由紀さん(会社員企画室勤務)、八田有理さん(会社員リサーチ部門勤務)の4名です。今回は、改めてこのプログラムを全国の皆様にご紹介する為に、シモンズ経営大学院所長のデイトン氏のメッセージと、フェローの中からBPW山梨クラブの会員でもある宮澤由佳さんの報告書の一部を御紹介します。

JWLI フェローへのメッセージ

パトリア・デイトン シモンズ経営大学院
ジェンダー研究所所長

2011年の JWLI プログラムは9月、4人のフェローを迎えてスタートしました。異なる分野での技能や経験を背に参加した4人は、非営利分野の事業展開を学び、帰国後は社会の変革に関わることを目指すリーダー候補として選ばれました。

本プログラムは、ボストンのシモンズ・マネジメントスクールとBPW日本支部の協力で実施されています。BPWはプログラム参加者の人選、彼女達へのオリエンテーション及びフォローで手腕を発揮していただける心強いパートナーです。

研修を終えて

宮澤 由佳 NPO 法人子育て支援センターちびっこはうす 理事長

私が地域支援活動を始めて20年目(NPO法人設立から9年目)という節目に、社会貢献活動先進地であるボストンで、たくさんのNPO法人において「ハンズオン研修」を受けられたことは、我がNPO法人にとって非常に幸運であり、かつ、私たち以外のNPO法人や子育て中の親たち、多くの女性たちにとって、大きな利益になり、今後もその効果が広がっていくことは間違いないと確信しています。なぜなら、現在NPO法人が抱えている多くの課題の答えを、この研修によって得ることが出来、

それを広めていくことで、さらなる効果が期待できるからです。



この素晴らしい機会を与えて下さったフィッシュ・東光・厚子さんをはじめ、このプログラムに関わって下さった全ての方々に感謝申し上げます。

◆ 得たもの

1. 効果的な資金集め方法

- ・ 財団からの寄付の獲得
- ・ 個人からの寄付の獲得
- ・ その他の寄付の獲得…様々なイベントを実施して寄付金を集める「ガラパーティ」「オークション」「チャリティバレエ」「アンティークショー」等
- ・ 行政からの委託事業の獲得。
- ・ 効果的な PR を行い、寄付をしたくなるようなイメージを確立をする

2. 社会に認められる事業計画作り

- ・ 理念を明確にする…理念はわかりやすく、短い文字で伝えられる工夫が必要。
- ・ 「ニーズ」に基づいた活動…地域の課題「ニーズ」をよく検証し、社会に認めてもらえる事業計画づくりが重要。
- ・ 一歩先の視野を持つ…時代ごとの新しいニーズにも対応できるように、事業を見直す機会を持ち、検証、再構築していく。
- ・ クライアント(利用者)から期待される品質や価値を提供…時代ごとの新しいニーズにも対応できるように、事業を見直す機会を持ち、検証、再構築していく。

- ・ 詳細な事業、会計(実績/見通)の開示

3. 画期的な組織作り

- ・ 組織体制を明確にし、関係者間で共有する
- ・ 課題の改善を重視する
- ・ 資源の活用(人、物、情報)…アナウンサー、弁護士、イベントボランティア等を最大限に活用する。
- ・ 他団体、企業、行政との協働…大きな NPO 法人や小さな NPO 法人と協働しながら課題を解決していく。また、企業、行政とも協力関係を作りながら、より大きな信頼と実績を作り上げていく。大学等との連携も視野に入る。
- ・ プロとしての自信、自覚、行動…スタッフのモチベーションが高まるように、その労働条件や研修計画などにも配慮する。スタッフ一人ひとりが組織の代表者という意識の醸成に努める



◆ 今後のアクションプラン

本研修では、簡単には整理しきれないほどのたくさんの収穫があったので、一つ一つ整理しながら、

多くの仲間にこの収穫を伝えたいです。また、自分の関わっている NPO 法人の組織改革を行い、事業計画の見直し、資金集めなど、学んだことをしっかり実践していきたいと思います。私がボストンで体験した素晴らしい NPO 法人に、一歩でも近づくことが今後の目標です。

2010 年及び 2011 年「JWLI フェロー報告書」は以下の BPW 連合会のホームページで見ることができます。

<http://www.bpw-japan.jp/japanese/jwli.html>

JWLIフェローシップ募集のお知らせ

1ヶ月間のボストンでのNPOマネージメント、リーダーシップ研修(女性指導者育成支援事業)

社会に貢献する女性リーダーとして活躍する日本女性を支援するプログラムです。最終の目的は、研修結果を生かして社会貢献活動に参加すること。この目的に沿って 1 か月のボストンでの研修を希望する女性を募集します。

滞在期間: 2012 年 9 月 5 日～10 月 4 日

応募資格:

- 1) 年齢 28 才以上の日本女性
- 2) 5 年以上の実社会での社会経験(非営利分野、ビジネス分野、公的機関等を含む)を有する方
- 3) 帰国後、確固たるビジョンと夢をもって社会貢献活動や、自らの社会活動に意欲をもつ方
- 4) 現地での実習に必要な英語力(コミュニケーション、レポートなど)を有する方

応募締切: 参加申込み 2012 年 3 月 31 日(土)

応募人数: 若干名(過去 2 年は各 4 名)

選考方法: 書類審査および主催者による英語インタビュー(東京)

必要書類:

- 1) 履歴書(英文及び日本語)
- 2) 英文エッセイ(A4 で 2～3 頁)研修で学びたいテーマとその理由及び帰国後の具体的な社会貢献プランについて
- 3) 英文推薦状 (A4 で1頁)所属する組織、会社、NGO/NPO等役員等の推薦

研修責任組織: 米国マサチューセッツ州 ボストンシモンズ・カレッジ シモンズ経営大学院

選考結果: 6 月初旬

応募及び問い合わせ: jwli2012@bpw-japan.jp

その他: 滞在期間中の、研修に関わる学費・宿泊費・食費・交通費などは支給されますが、ボストンまでの旅費・J1 ビザ取得のための費用は自己負担となります。

応募詳細はホームページ「女性指導者育成支援事業」よりご覧になれます。

第2回 JWLI フォーラム開催の お知らせ

2012年 JWLI フォーラムは、4月7日(土)に横浜で、4月8日(日)に和歌山市でそれぞれ開催されます
横浜市

2012年 4月7日(土)
10時～12時30分(開場9時30分)
横浜市健康福祉総合センター4階
ホール(横浜市中区桜木町1-1)

和歌山市

2012年 4月8日(日) 13時30分～16時15分(開場13時)
和歌山市 ビッグ愛 12階 会議室
(和歌山市手平2-1-2)

詳細は追ってホームページ最新情報、チラシでお知らせします。今年、アメリカから素晴らしい基調講演者、倉石真理氏が、来日し、NPO組織の新時代についての興味ある紹介がなされる予定です。

第9回国連CSW インターン派遣事業

第56回女性の地位委員会(CSW)及び同時開催されるNGOフォーラムに、BPWから参加する第9回国連CSWインターンに、小林悠さん、吉原彩さん、平野歩さん、照井奈々帆さんの4の方が選ばれました。会期は2012年2月26日から3月9日。4人は約2週間ニューヨークに滞在し、国連本部で開催されるCSWおよびBPW関連のイベントに参加します。

編集後記にかえて：

皆様から集められた復興支援金。このたび第1回目の支援先が決定しました。海外のBPWメンバーにもBPW-Iのホームページ等を通してお礼と報告を伝えました。皆様からのご協力が1つ実を結びました。ありがとうございました。しかし復興の道はまだ続きます。引き続き被災地女性の経済活動支援にご協力お願い致します。

BPW 東日本震災復興支援事業 第1回支援対象決まる

東日本大震災に関連して、日本BPW連合会は『女性から始まる復興への道』をスローガンに掲げ、BPW International を含む会員各位へ支援を呼びかける一方、支援事業として「女性による事業で将来的には女性の雇用促進にもつながるような事業活動であることなどを条件に30万円を上限に支援を行う」という「女たちの、女たちによる仕事づくり」プロジェクトを実施しました。このたび第1回の支援対象者が決まり贈呈式が行われました。

未曾有のあの3月11日の東日本大震災から10か月を経過。1月8日仙台市の空は、雲は少しあるものの、冬晴れ。日本BPW連合会は、国内、外から寄せられた支援を、「女たちの、女たちによる仕事づくり」を目標に、活動を展開。



第1弾として、被災地で経済的な活動を進めている女性への経済的支援を行うことを決め、一事業所に30万円を限度に支援するとして、まずは3件を募集。期間は短期にもかかわらず、7件の募集が寄せられ、将来性、熱意、費用対効果、何よりも女性が復興の主体者になれるよう願って支援対象を選びました。1月8日、

贈呈式は仙台市市民活動センター。仙台クラブのご尽力でこの事業にふさわしい会場に、◇ともこ助産院(仙台市)、◇(株)千葉商店(南三陸)、◇マリンマザーズきりきり(岩手県大槌町)の3事業所の代表が出席。

宮城テレビの取材も入り、松原理事長、本プロジェクトチームの棚田副理事長をはじめ、国際委員長、広報委員長、企画委員長、そして山形、地元仙台クラブの代表が復興のオリジナルベストを着て贈呈式を盛り上げました。3事業所に支援金を贈呈し、松原理事長からは、「日本国内、海外からもBPWに寄せられた支援を、女性たちの経済活動を広げるために使っていただきたい、そして女性が元気になれば、家庭も社会も崩壊してしまう、女たちの仕事づくり、働く場所拡大につなげていきましょう」と力強いエールを送りました。支援金を贈られた3事業所の代表からは、感謝の気持ちとともにこれからの事業展開、決意が述べられ、何よりも晴れやかな笑顔が参加者一同を温かく包むようなひと時でした。以下は3事業所の概要です。



ともこ助産院:被災地気仙沼市磯浜地区を中心に70歳以上を対象として高齢者の現金収入を目的に、母乳育児の指導に使う毛糸編みのおっぱいの模型作りを支援、それを助産師に販売している。今後さらに商品開発を展開したい。

千葉商店:工場、店舗、倉庫を流出したが、幸い原料の一部が別の保管倉庫に残った。製品化のための機材を借りて8月には仮設店舗、10月には仮設工場の稼働を始めた。今後、生産者が活発になれば事業規模を拡大して雇用を増やしたい。

マリンマザーズきりきり:津波で海産物加工の作業所、店舗を流出。生活再建のために、また地域の人々の集う場所づくりに、若い人が働けるようにと8月には大槌町復興第1号店となる仮設食堂を開設。今後も若い人の雇用を増やしたい。最近、支援金でラーメン店で使用する寸胴鍋を購入したと、うれしいニュースが届けられました。(土田)